

風まち・潮まち・港町

みたらし通志



●なんでも伝言板
豊町の新しい特産品
「大長レモン酒」誕生

●ゆたかまちの味じまん
仕出しむら吉のお弁当
「御手洗の巻寿司」

●船大工宮本國也さん聞く
[特集]島の匠が語る
「御手洗の巻寿司」

●御手洗ものがたり
御手洗の金融制度

みたらし
2003年3月10日
NO.11
桜桃号

豊町商工会

豊町

みたい通志 2003.3.No.11

桜のつぼみもふくらみはじめ、お花見が待ち遠しい時期になってきました。さて、このたび誕生した豊町の新しい特産品の「大長レモン酒」。みかん以外の特産品が少なかつた豊町にとって、地元産のレモンを使ってのお酒とあって、嬉しい限りです。さっそく私も初搾りを飲みましたが、これが美味しい。レモンの風味が生きており、とてもさっぱりとした味に仕上がりっています。ぜひお試しを！（豊町商工会会長 村尾征之）



[表紙の写真]

戦前、割烹旅館を営んでいた頃の御手洗「木村旅館」(現在のむら吉)。まだ県道が通っておらず目の前は海だった。中央の小さな屋敷は離れの座敷。江戸時代に吉田松陰が御手洗に立ち寄ったときに泊まったといわれる別荘を移築したもので由緒ある建物。庭にある立派な松の木は残念ながら松枯れで今は無い。

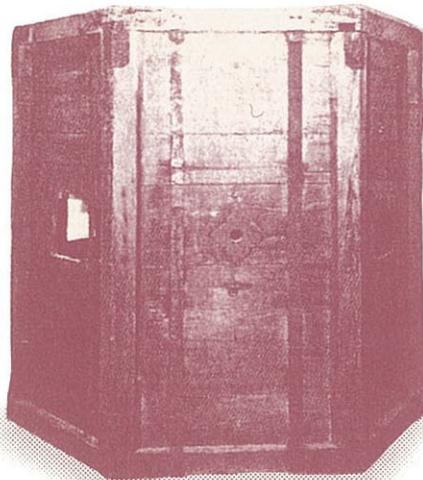
(写真上) 御手洗に新しく誕生した観光案内板。4基新設された。写真は消防屯所前広場のもの。他にも、小長港フェリーのりばに豊町全体の観光案内板が1基新設。
(写真中) 住吉通りの船宿跡で模型の木造船をつくる船大工の宮本さん。
(写真下) 仕出し「むら吉」のご主人愛用の古い8ミリカメラ。ドイツ製の年代物。

御手洗の金融制度



どうやって正銀を集めるか。

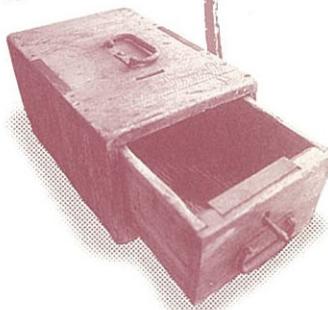
江戸時代の御手洗びとの知恵と工夫を考察。



江戸時代、御手洗で使われた富くじの抽選箱。
木製のしっかりした作りでカタチは六角形、人間の背丈ほどあり、かなり大型である。現物
は江戸みなとまち展示館で見ることができる。



富くじを目当てに近隣諸国はもちろん、伊予地からも一攫千金の夢を追って御手洗に集った。また、寄港している他国船の船乗りや、富くじを当て込んで入港する船なども多かったという。



その昔、御手洗の商売人が使っていたという木製の手さげ金庫。ちゃんとカギが付いている。潮待ち館に展示されている。

る。つまり、御手洗の住民は公共工事、排水路を作つたり、井戸を掘つたりするために出米銀という方法で資金集めをしたのだが、このたまたまお金の運用方法として、商人たちに貸し付けたのである。

江戸時代、物流の拠点として発達した御手洗の商人たちは、主として穀物の商取引をするために莫大な正銀を必要とした。当時、藩内での商取引は藩札でまかなうことが出来たが、他国から来た船との売買は正銀でなければ相手にされない。では、御手洗の商人は商取引にかかる正銀をどのようにして調達したのだろうか。

たとえば、その頃の問屋の中では最大手の「新屋（あたらしや）」は文化9年（1806年）に上る商いを行つてゐる。こ

の頃の1両を7万円として換算すると10億円以上になるのである。

このような商いに要する資金を調達する方法の一つとして考へ出されたのが出来銀（できぎん、しゅつたい銀とも）いう制度である。これの起源は不明であるが、その財源として荷揚げ穀物商業金融に占める割合は非常に高く、天保6年の「諸算用書抜」という竹原屋文書によると貸し付け総額のうち約30%を頼母子講への懸け銀に投入している。つまり、この頼母子講は大店同士の資金の融通という面もあったようである。

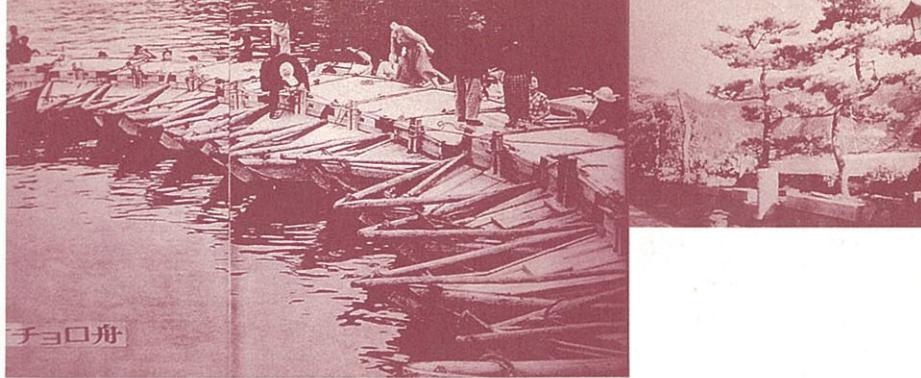
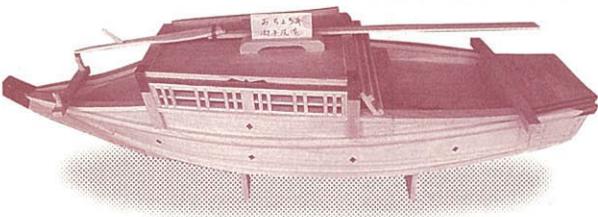
このほかにも富くじ興行をして資金を集めたり、「押借銀」といつて町方を通じて藩から金を借りたりなど、いろいろな方法がとられていたようだが、つねに正銀不足に悩まされていたようである。

港町 島の匠が語る

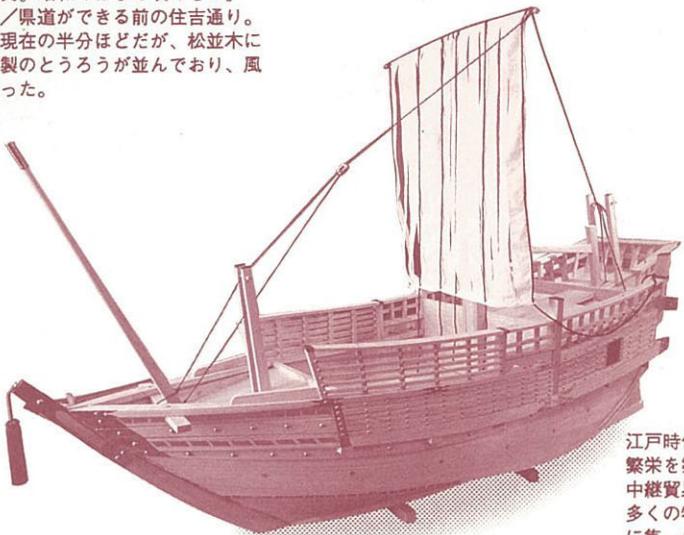
「特集」

たくみ
船宿跡で木造船の模型を造る
船大工 宮本國也さん(72歳)に聞く

宮本さんが作ったおちょろ舟の模型。農船（山伝馬）とカタチはほとんど同じ。船内に遊女が5、6人入り、ちょろ押しといふ男性が櫓をこいでいた。



写真上／船宿に展示してあるおちょろ舟の写真。昭和のはじめ頃のもの。
写真右／県道ができる前の住吉通り。
道幅は現在の半分ほどだが、松並木に赤い木製のとうろうが並んでおり、風情があった。



江戸時代の御手洗の繁栄を築いた北前船。中継貿易港として、多くの物資が御手洗に集った。

江戸時代の港町、御手洗を海沿いに歩いていると船宿が見えてくる。その船宿でいつもミニチュアの木造船を造っているのが宮本國也さん。ちょうどこの日は、長崎の水産会社から頼まれた少し大きめの船を造っていた。「今は材料が思うように入らんで大変なんよ。ミニチュアでも作り方は同じなんよ。親父が船大工しよつたもんで、予科練から帰つてから、手伝えゆうてねえ。まあ、船大工は親父に仕込まれたんよ」。その頃は、みかんのいい頃で農船を中心にお造つていたそうだ。「大長の船をよお造つたよ。八尋の船を2隻も造つたもんよ」。一尋が六尺(1.8m)になるから、ずいぶん大きな船になる。「今でも堀にウチで造つた船が浮いとるよ」。

御手洗

宮本 國也(みやもと くにや)

昭和5年9月26日生まれ。72歳。御手洗で生まれ育つ。昭和20年、高等科2年の時に予科練に志願、奈良へ入隊。戦後、御手洗に帰島。船大工をしていた父親を手伝い、やがて独り立ちして船大工となる。平成8年よりミニチュア木造船を造るようになる。

船宿跡で毎日、もくもくと模型を作りつづける宮本さん。白いタオルの鉢巻きがトレードマーク。ミニチュアといっても作り方は本物と同じ。写真右手は千石船の模型。



今から12年前、平成3年の台風19号で仕事場が倒壊し、道具も潮に流されてしまった後。船宿前にて茫然とする宮本さん。

「わしの話を聞くんが楽しみじゃ
言うて、みんなここへ寄つてくれるんよ。
ありがたいことよのう。」



気さくな宮本さん
島の人気者。御手洗の昔話を語ってくれる。

模型づくりは台風19号後から

「親子ですーっとやりよつたが、親父が弱つて一人になつて。プラスチックのグラスファイバーができて木の船へランニング（ぐるつと貼りつける）するのをワシが一番早よう覚えて、豊島や四国の方の人にも教えてあげたんよ。そうしよるうちに、船が腐らんけえ仕事がだんだん無になつた。フェリーもできて皆クルマで畠に行くようになつて、山伝馬（農船）もいらんようになつた。山伝馬は中にきちんとみかん箱に入るようやけるんよ。みかん箱に合わせた船じやけえコンテナ船みたいなもんよね。大長だけの船よねえ。船の大きさで大百姓か小百姓か分かりよつたよね」。木造船が廃れていき、宮本さんの仕事が無くなつていった頃、平成3年の台風19号で仕事場が壊滅し、道具も全部潮にさらわれてしまつた。茫然自失の時、自宅に残つていた板図（面）を見ているうち、「縮小して造ろうか思うてミニチュアを造りはじめたんよ」。家には鉋（かんな）や手斧（のこぎり）、鋸（のこぎり）も残つていた。宮本さんのミニチュア船造りがはじまつた。

船宿で仕事をしていると尋ねて来る人、前の道を通る人々が皆、宮本さんに声を掛けていく。バスにまで手を振り「おう！」とあいさつする宮本さんは、観光客にも気軽に話しかけ、おちよろ舟や潮まち、風まちの御手洗の話しがしてくれる。「尋常小6年くらいに女の子が入つてきて、高等科卒業するまで置家も学校へ通わせよつた。皆まじめな子らで、ワシらあ遊びよつたが、しゃみやお茶、花を習つて、芸事に下働きに、ずっと働き詰めよおーね。それから、ちよろに乗るようになるんよ」。

昨年、新しくできた江戸みなとまち展示館には、宮本さんの作ったジャンボサイズの北前船が展示してある。



お父さんに鍛えられた船大工の腕は、訳あって四国、北海道、東京と渡り歩いた頃にも、どの地でも通用し重宝されたそうだ。御手洗の船大工の技術は全国的にも進んでいたことがわかる。

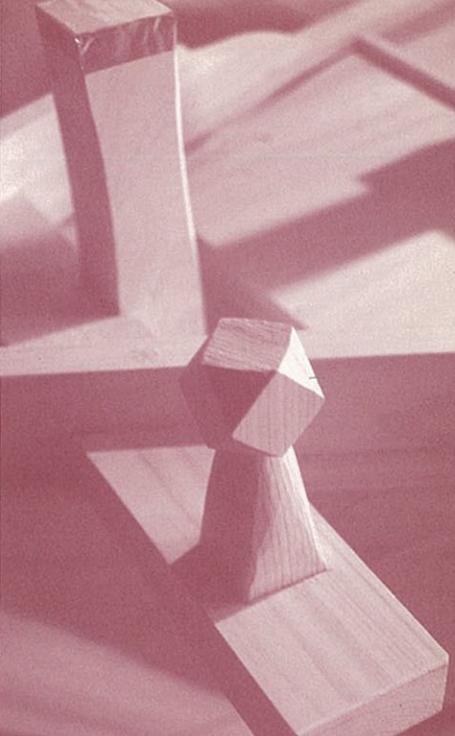
船宿をのぞいたら、いつも気さくに話しかけてくれる宮本さんの笑顔に出会える。宮本さん、これからもミニチュア木造船を造り続けて、御手洗を訪れた人に船のことや町のこと、話してくださいね。



①



②



③



④



⑤

①おちよろ舟の大漁旗と古い板面。②台風19号で残った唯一の道具がこのかんな。③匠ならではの技は模型にも生きかれている。④船宿2階より千砂子波止、灯台方面を望む。⑤修復された船宿の全景。西国大名の船や各藩の商船が入港したとき、船荷や人に関わるすべての世話をしたところ。

ゆたかまち句集

十一

濤飛べる島裏かけて梅探る

飛弾桃十

昼の酒牡丹おぶりて咲きており 田阪純生

初風のさざら波間の浮鷗

越智杏庵

天帝のあやつる胡蝶海渡る 小草高穂

大樟一樹緑陰をなす島古刹

関藤星邦

出帆に娼婦手を振り初風げり 藤原東尋

なりはひの三寒四温の旅重ね 大島九水

叱られしことななつかし卒業す 丹保黄水仙

母の夢さめて春月窓にあり 木村翠山

春虹をくぐり漕ぎ出よおぢよろ舟 関藤蒼々

安芸伊予の灘をへだてて桜鯛 北川蚊居

蛸壺の中まで冬日横溢す 和田照海

太眉の下の眼光弓始

田阪田宗

雛飾り町の家格を守りつゝけ 北川鏡城

夕東風の舟をおとこえて乗る遊女 飛驒道弘

妻愈えよ寒厨茶殻つまりたり 今田悟渙

俳句・和歌を募集中！

みなさまからの俳句、和歌を常時募集しています。

豊町に限らず、テーマは自由。

たくさんの投稿をお待ちしております。

[あて先]

〒734-0302 広島県豊田郡豊町御手洗

豊町商工会「ゆたかまち句集」係まで

船宿に展示されている
御手洗港の写真。
昭和30年代のもの

ゆたかまちの味じまん⑪

仕出しむら吉のお弁当

まきいすし

ひつ
ひつ
ひつ
心を込めて
作っています



むら吉いちばんのおすすめはこの巻き寿司。太巻きで具たくさん、地物のあなごも入って450円。お花見にも最高。御手洗観光の昼食やおみやげにぜひどうぞ。必ず予約してください。

**旬の魚に地元の豊富な食材
かつての割烹旅館の味が
弁当になつた！**

御手洗においしい弁当がある。地元の人はみんな知ってるが、御手洗の町並みを歩いても、どこにもお弁当を見つけることはできない。残念ながら予約をしないと、この弁当にはありつけない。

「冷凍物は使わず、できるだけ地元の材料を使うようにします」と店主の木村元雄さん。そう！せっかく島に来たのだから新鮮な魚貝を食べたいのが人情というもの。一品は必ず旬の魚を使うそ�だ。たこめし、あなごの刺身、太刀魚の酢物等々。むら吉は弁当だけじゃない。おみやげに欲しいと予約の入る巻き寿司は好评。かんびよう、しいたけ、たまご焼等、全て一つずつ味付けする手作りの材料に、地物のあなごも入った豪華なり巻だ。吳で会社員をしていた木村さんは、望郷の念から25年前、一家で御手洗に戻ってきて自家業の旅館を継いだ。木村旅館は料理中心の割烹旅館として有名だった。今では、子供の頃から料理をするのを見て育った目と、食べるの大好きなグルメな舌で腕によりをかけ、おいしい弁当を提供する仕出し業に励んでいる。



プリプリのタコがたっぷり入ったタコめしとかきあげ天ぷら、御手洗名物の堅豆腐が入ったタコめし弁当。地物のあなごの刺身、太刀魚の酢物、めばるの煮付け等が入ったとても豪華なみたらし御膳。もちろんタコめし付。どちらも要予約。



昭和30年代の木村旅館。海上の船から撮影されたもの。船から見えるようにと護岸の堤に木村旅館の看板が挙がっている。庭のこいのぼりはご主人のものだそうだ。

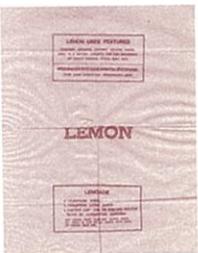


むら吉ご主人の木村元雄さんと奥さんの良子さん。レトロな木造の建築は戦前のまま。木村旅館の看板は10年前から「むら吉」になった。
仕出しむら吉TEL08466-6-2508

ゆたかまちなんでも伝言板

●曲里町の新しい特産品「大長レモン酒」誕生!

懐しい爽やかさ
大長レモンが
お酒になりました。



戦前、アメリカに輸出されていた頃の大長レモンの包装紙。なんと、レモネードのつくり方まで書いてある。



大長レモン酒[果実酒]

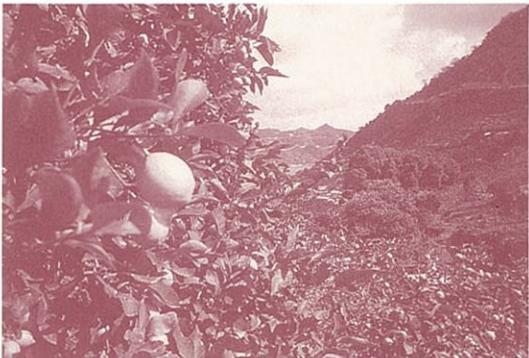
- ・原材料 大長レモン
- ・アルコール度 9%未満
- ・容量 500ml
- ・価格 800円(税別)



豊町のレモン加工場で地元の主婦たちにより搾汁が行われる



懐しい爽やかさ
レトロ調のラベル



春の陽だまりの中、海を見下ろす石組みの段々畑から黄色に色づいたレモンが出番を待っていた。

豊町でレモンが栽培されはじめたのは明治31年、国産レモン発祥の地として100年の実績を持つ「大長レモン」は、優れた栽培技術のもとでつくられる品質・味ともに天然レモンの超一級品。その「大長レモン」の搾りたて果汁を、独自の製法で発酵熟成させたのがこのレモン酒です。国産天然レモンならではの爽やかな芳香すつきりとしたキレのよい味わい、今までの果実酒にない極めて純度の高い本格レモン酒が出来上りました。昨年暮れ(平成14年12月)新聞で紹介されると初搾りの900本は即日完売に。「欲しかったのに買えなかつた」「飲めなかつた」というみなさんの声にお応えして、こたび大増量の第2次搾りがいよいよ出荷スタートします。今回の大長レモン酒の開発にあたつたのは豊町柑橘商品計画研究所。「大長みかんの島からこだわりの一品を!」をキ

ヤツチフレーズに、生産、加工、製造、販売の地元有志、及び島外の豊町ファンが集つた特産品開発のプロジェクトチームです。製造は竹原の中尾醸造が担当。当研究所では「今後も柑橘の島ならではの本モノ志向のこだわり商品を開発していく」と新たな商品開発に意欲を燃やしています。

島内での大長レモン酒のご注文・お問合せは豊町商工会まで。

TEL 08466162020



大長のレモン農家、末岡康功さん。「ここは陽当たりもええし、水はけもええ。日本一のレモンができるんよ」と目を輝かせる。



おたより

読者の広場

■…読者からのお便り

★…編集室からの返事（今回はNが担当）

たくさんのお便りありがとうございます。

「みたらし通志」の感想や、

豊町を訪れた感想・豊町への希望などもお便りください。お待ちしています。

■ 「みたらし通志」初めて読みました。今日（12／30）初めて大崎下島へ渡り、御手洗へ行き素敵な町並みを見ました。そして潮待ち館で「みたらし通志」手にしたのです。御手洗の情報をもつとも掲載して下さい。その情報を手に、もう一度御手洗を訪問できれば幸せです。

（石田勇治・52歳・廿日市市）

★ 「みたらし通志」をますます愛読していましただけますようお願いいたします。

■ 豊町といえば「大長みかん」ですが、魚も当然おいしくですね。「エビこぎ漁」とてもおいしそうですね。クルマエビの躍り食いをしてみたいです。

（平賀孝明・41歳・府中市）

★ クルマエビもいいですが、普通のえびの躍り食いが最高です。まだ生きているやつを皮をむくのどちらと残酷な気がしないでもないのですが、ひとつ食べたら、うーん、もう、そんなことを言つて、いる余裕はなくなります。

■ 先日初めて大崎上島と下島へ行き、御手洗のまち歩きました。こんなまちなみが残されていることに感激し歩いていましたところ、江戸時代のお茶屋だというところをたまたまそこにいたおじさんが説明してくださいました。「ガイドの人でもなさそうになりました。町の人みんなで町親切な方だなあ」と思いました。みたらし通志によりまして、「町民みなガイド」とか「なるほど納得してしまいました。町の人みんなで町

■ おさんぽクルーズでみたらしを歩きましたが、もつともいつと時間がほしかったです。その時に頂いたみたらし通志を拝読して、ますます旅情をさせています。来月又参ります。益踊り、エビこぎ漁といいますねえ。

（神庭千世・78歳・広島市）

★ 御手洗は一度ガイドしてもらって概略を知り、そのあと一人でゆっくり歩くとほんと

■ 「みたらし通志」初めて読みました。今日（12／30）初めて大崎下島へ渡り、御手洗へ行き素敵な町並みを見ました。そして潮待ち館で「みたらし通志」手にしたのです。御手洗の情報をもつとも掲載して下さい。その情報を手に、もう一度御手洗を訪問できれば幸せです。

（石田勇治・52歳・廿日市市）

★ 「みたらし通志」をますます愛読していましただけますようお願いいたします。



（平賀真美・39歳・府中市）

にいい町だということが分りますよ。

■ 先日、主人が友達と一緒に遊びに行き、「静かで魚がおいしかった」「君も友達と一緒に遊びに行つたら良いと思うよ」と。毎日あれこれと忙しく動き回る生活から、友達と一緒に心の充電にそちらを散策できたらと応募させて貰いました。

（新宅清女・57歳・福山市）

★ 御手洗の背後の丘は「歴史の見える丘公園」と言います。高どうろう前に設置された御手洗の新しい観光案内板。

■ 観光客に、自分の家の周辺にある名所旧跡だけでもガイドできるようになります。それは離しいという人は、「あそこにある潮待ち館に行つてみんさいや、いろいろ教えてくれるはずじゃけん」と言つてあげましょ。いや、ワシは口下手でそれすらよう言わん、という人は挨拶だけでもしてあげてください。これが、「町民みなガイド」の趣旨です。どうぞよろしく。



歴史の見える丘公園より御手洗の町並みを望む

■ 以前、NHKだったと思いまが、御手洗の町紹介放映を見て一度行つて見たいと思いつつ…。この度、友達の主人がそちらに遊びに行かれたそうで、「みたらし通志」を持って帰つて下さり、プレゼントコーナーを見て応募させて貰いました。江戸の町屋、



えど まちな

江戸の町並み



MITARAI
since 1666

寛文6年(1666) 町屋敷割りを藩より許され、
人が建ちはじめる

正徳3年(1713) 町年寄り(大長村の統轄下)が置かれる
宝暦9年(1759) 常盤町を中心とした大火(11月)

文化3年(1806) 伊能忠敬が御手洗を測量した
(3月1~3日)

5年(1808) 町庄屋が独自に置かれる(初代柴屋)

文政9年(1826) シーポルトが寄港する

11年(1828) 千砂子波止の築造(11~12年)

11~13年 住吉神社造営(大坂 鴻池善右衛門寄進)

(1828~30) ※千砂子波止の築造以後、
住吉町の埋立てが進んだ

嘉永6年(1853) 吉田松陰が長崎行きの途中に立ち寄る

元治1年(1864) 三条実美ら五卿が多田勘右衛門宅
(竹原屋)に寄寓する(7月22日~24日)

明治12年(1879) 御手洗町が大長村より独立

昭和31年(1956) 1町2村合併して豊町となる

平成6年(1994) 国選定 重要伝統的建造物群保存地区
となる

豊町(御手洗)への交通のご案内



- 今治から大長まで…高速艇で30分
- 竹原から大長まで…高速艇で40分
- 仁方から大長まで…高速艇で40分
- 三原から大長まで…高速艇で1時間
- 吳から大長まで…高速艇で1時間
- 広島から大長まで…高速艇で1時間25分
(または) 高速バスと高速艇で約2時間
- 広島空港から大長まで…
ジャンボタクシーと高速艇で約1時間30分
- 大長から御手洗まで…バスで3分
(または) 歩歩15分
- 大長から久比まで…バスで約10分
(または) レンタサイクルで20分
- 大長から沖友まで…バスで10分
(または) レンタサイクルで25分

プレゼント コ・ナ

豊町の新しい 特産品

木 そん し

大長檸檬酒を5名様に!



大長レモン農園



大長檸檬酒
500ml

今、話題の大長レモン酒。国産レモン発祥の地として100年の実績を持つ大長レモンの搾りたて果汁からつくられた本格レモン酒です。爽やかな芳香、すっきりとした味わいをお楽しみください。

■応募方法／ハガキに「大長レモン酒希望」と書いて、住所・氏名・年齢・職業・電話番号、そして「みたらし通志」に対するご意見、ご感想をお書き添えのうえ、下記までお寄せください。抽選で5名様にプレゼントいたします。当選は発送により発表にかえさせていただきます。

■あて先／〒734-0302 広島県豊田郡豊町御手洗
豊町商工会「みたらし通志」プレゼント係

■締め切り／平成15年6月30日(当日消印有効)



観光案内(観光の問い合わせ・ガイド申込等)
■潮待ち館・観光交流センター
TEL-FAX 08466-7-2278